

平成23年第4回定例議会で佐野れいじ区議の一般質問



# 財政見通しの甘い「第2次10か年計画」が 事業見直しと組織再編を繰り返す事になるのではないか!

佐野れいじ区議は第4回中野区定例議会で一般質問に立ち、①平成23年度事業見直しについて ②中野区の組織のあり方について ③パワーハラスメントについて ④中野区職員の名刺について の4項目にわたって質疑を繰り返しました(12月1日)

## 平成23年度事業見直しについて

中野区が平成22年3月に策定した「第2次10か年計画」(平成22年度～31年度)の財政見直しでは、基準となる一般財源規模を歳入・歳出とも650億円と設定し、右肩上がりを基調に26年度以降は650億円を上回ると想定していました。

ところが、計画策定早々、大幅な下方修正がなされ、22年度から27年度までの6年間で650億円に達する年次はなく、この6年間の累計で見ると91億円不足となります。区長は施政方針説明の中で「全ての事業についてゼロベースでの見直し」を繰り返し述べていますが、この見通しの甘さなどを質問に取り上げました。

- Q 基準となる中野区の一般財政規模650億円の根拠は何か。
- A 一般財源の歳入実績や将来推計に基づき設定した。その際、リーマンショック後の経済動向を加味した。
- Q 10か年計画の財政的裏付けができていないとは到底考えられない。
- A 10か年計画は事業計画の年次を固定して定めたものではなく、区政の目標を定めたものだ。事業の見直しや改善を進め、10年後のまちの姿を着実に実現して行く。
- Q 計画年次が変更されたり先送りされる事業については具体的に区民に説明すべきだ。
- A 個々の事業については財政状況や社会状況などによって変動するものだ。その都度ご理解をお願いしたいとかがえている。
- Q 歳出だけを見直すのではなく、歳入確保策をどう強化するのも重要ではないか。
- A 発生した未収金については、差し押さえを含む厳正な対応を行い、可能な限り早期に収納することが肝心だ。

## 中野区の組織のあり方について

中野区では事業の見直しなどによる目標体系の見直しによって毎年のように組織の再編が行われていますが、果たして区政管理の上で有効なのか、逆効果、悪循環はないのか。また、「組織のフラット化」を図るとして、統括管理者(課長)と執行責任者(係長級)を配置していますが、それぞれの役職が十分に機能していないか。さらには、1人の統括管理者が管理する部下の数は少ないところでは7～9人、最も多い戸籍住民分野で118人となっており、スパン・オブ・コントロール(監督範囲適正化の法則)の視点からも、余りに多いと管理監督機能が失われてしまうのではないかと質しました。

- Q 毎年、組織を変えることは経営管理上、有効なのか。
- A 常に現状を見直し、有効な執行体制を整えることは必要不可欠だ。
- Q 統括管理者、執行責任者の役職が十分に機能していないから、財務監査指摘など不適切な事務処理を招いているのではないか。
- A ミスの発生を最小限とするため、組織内チェック機能を強化に取り組んでいる。
- Q どんなに優秀な管理者でも、膨大な決済について間違いがないか点検することは容易ではない。組織編成において、人数などは考慮されないのか。
- A 1人の管理者が管理する業務量や職員数が多くなっても、職員の指導・育成が十分に行われるよう、執行責任者やチームリーダーを適切に配置している。



中野区役所

# 中野駅周辺まちづくりが進んでいます。

明治・帝京平成・早稲田が集結、学生の街に

現在、中野駅周辺では警察大学校等跡地や中野駅北口駅前広場等の整備工事が進んでいます。

平成24年春には、警察大学校等跡地の公園(1.5ヘクタール)や道路が供用開始され、業務商業施設等も竣工します。これら開発による来街者増に対応するべく、中野駅でも北口改札や北口駅前広場を改修し、歩行者を中心とした広場に生まれ変わります。また、中野通りを跨ぐ形で東西連絡路が架設され、誰もが中野駅へ安全に行き来できるようになります。

警察大学校等跡地では、平成25年春に明治大学・帝京平成大学のキャンパスが開校、平成26年春には早稲田大学の(仮)国際コミュニティープラザが開設するなど、順次にぎわいが広がってゆきます。

今後も、中野駅地区も西側駅舎・南北自由通路、中野駅南口のまちづくり等を着実に進め、中野駅周辺はよりにぎわいあるまちとなっていきます。

北口駅前広場東側から中野通りをのぞむ



▲北口改札を駅前広場側に移設。北口駅前広場は歩行者中心の空間となります。また東西連絡路により、誰もが安心安全に中野通りを行き来できます。

中野通りの東西をつなぐ陸橋の整備



▲北口東西連絡路には、エレベーター・エスカレーターを設け、地形の高低差の緩和を行なうなど、ユニバーサルデザインのまちづくりを進めます。

## パワーハラスメント対策について

パワーハラスメントとは、簡単に言えば、職場において上の者が下の者にする「いじめ」ですが、中野区では昨年8月に中野区職労が職員を対象にアンケート調査を行いました。回答者数は770名、回答率約35%。

それによると、パワハラを受けている、もしくは受けていたと答えたのは41%。パワハラを受けて精神的にどうなったかでは、複数回答で「気分が憂鬱になった」58%、「異動したくなった」50%、「辞めたくなった」35%、「通院した」12%、「死にたくなった」6%と深刻な状況に置かれていることが分かりました。また、いじめの行為者は直属の上司が69%でした。

- Q 調査結果についてどう思うか。
- A 正当な指示命令や指導叱責でもパワーハラスメントととらえられないよう正しい理解を深めていく。
- Q 今後の対策は。
- A 相談と苦情処理の仕組みについて改めて職員に周知していく。

## 中野区職員の名刺について

昨年6月の第2回定例会の一般質問で、バラバラな職員の名刺について取り上げ「庁内統一性のあるものを作

成したらどうか」と質問したのに対し、区長は「今後、区として標準を定め、公用に使う名刺は区の支給も検討して行きたい」と答えました。また、昨年1月発売の「東京ウォーカー第3号」で中野は住んで良かった街、ナンバーワンになりましたが、住みたい街ランキングでは10位でした。中野の魅力を外に示すシティセールにも名刺活用は大きな成果を上げるのではないかと、区の見解を聞きました。

- Q 6月の私の一般質問で、名刺について区長から前向きな答弁をいただいたが、現在の検討状況はどうか。
- A 現在、23区などの例を調査し、デザインや印刷方法等、比較検討している。
- Q アイディアを活かした名刺を作成し、中野の魅力をアピールしたらどうか。
- A 専門家の協力を得ながら、まちの魅力を発信するデザインの基とし、早い時期、遅くとも平成24年3月までに新しい名刺を使えるようにしたい。

## 中野新橋ポケットパーク(仮称) 中野新橋のたもと、現在の工事機材置き場が公園に!



平成24年1月～3月に整備工事、4月開園の予定です。設計・工事は東京都、運営・管理は中野区が行います。